

### ちいさな芸術家たち ● その3 からだで描く

今日は少しだけ特別な日です。絵の具に刷毛、そして大きな画用紙を用意しました。女の子は画用紙が広げられるとすぐ、その上にちょこんと座りました。そのまま何度も両手を滑らせてから、かがみこんで紙をなめ、最後はごろんと寝転びました。刷毛を渡そうとすると、ぼさぼさの穂先やどっぴりついた赤い



(撮影/野上悦子)

▲画用紙に座って紙の手触りを確認してから...  
▲刷毛をさかして描くパル

絵の具にも興味津々。ようやく刷毛を握り力強い線をあちこちに走らせたかと思えば、穂先をぎゅっと押しついたり、叩きつけてみたり。パフォーマンスアートさながらに刷毛をふるって描きました。

—5歳のチンパンジー、パルに描いてもらったときの様子です。チンパンジーは、特別な訓練をしなくても絵筆をあつかって描くことができます。子どものチンパンジーが描く絵は、ヒトの1~2歳児のなぐりがきとそっくり。なぐりがきは何かを表した線ではありません。筆を動かすと紙の上に点や線が生まれる。自分の行為に対するフィードバックを確かめながら「探索」した軌跡です。描かれた線のような視覚的なフィードバックだけでなく、筆を動かす感覚に、絵の具の匂い、画用紙の手触りや寝転んだときの感覚もぜんぶ「探索」の対象です。からだ全体で新しい世界を探索する。それはヒトにとってもチンパンジーにとっても、なんだか楽しい、なのですね。

### お料理レシピ ● 旬産旬消「秋の恵みをしっかり食べよう！」

待ちに待った“実りの秋”到来です。魚も脂が乗り、キノコや果物もたくさん出てきます。旬の食材はおいしいだけでなく、多くの栄養素を含んでいます。今回は抗酸化力の強いアスタキサンチンを含む秋鮭、食物繊維を多く含むしめじ、ビタミンCやβ-カロテンが豊富なほうれん草、カルシウムたっぷりの乳製品を使った簡単グラタンとスイートポテトをご紹介します。しっかり食べて、しっかりお外で遊びましょう。

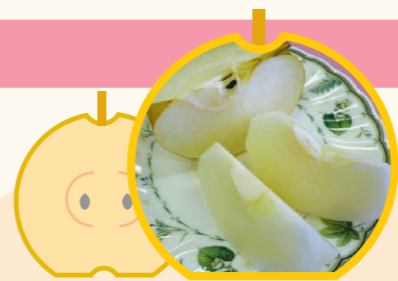
#### 鮭とほうれん草のグラタン

材料 ●●● 2~3人分

鮭2切れ、ほうれん草1/2束、しめじ1/2束、バター大さじ3、A(牛乳・生クリーム1/2カップずつ(無ければ牛乳1カップだけでもOK!))、小麦粉大さじ1、コンソメ1/2個)・パン粉・粉チーズ・パセリ適量、塩・こしょう少々

作り方 ●●●

- ①鮭は3センチ位に切り、塩・こしょうをふり、さっと熱湯に通す。
- ②ほうれん草は固めにゆでて3~4センチに切っておく。
- ③しめじはほぐし、バターで炒め、Aを加えてとろみがつくまで加熱する。
- ④耐熱皿に鮭、ほうれん草を盛り、③をかけ、好みでパン粉・粉チーズをふりかける。
- ⑤オーブントースターで10分ほど焼き目がつくまで焼く。



管理栄養士でもある岡本秀己さん(滋賀県立大学人間文化学部)と同本ゼミの学生のみなさんに考えていただきました。

#### スイートポテト

材料 ●●● 10個分

さつまいも 400g  
砂糖 50g  
生クリーム 1/2カップ  
無塩バター 20g  
卵黄 2個  
バニラエッセンス 適量  
黒ゴマ 適量

作り方 ●●●

- ①さつまいもはよく洗い、電子レンジで5分程蒸し、熱いうちに皮をむき裏ごしする。
- ②①を鍋に入れて砂糖・生クリーム・バターを加え、弱火にかけ煉る。滑らかになったら、卵黄1個・バニラエッセンスを加える。
- ③絞り袋でアルミカップに絞り入れ、卵黄を表面に塗る。
- ④180℃のオーブンで10分程度、焼き色がつくまで焼く。



# うみかぜだより 第11号

2010.10.20



こんにちは！  
「うみかぜだより」です♪♪♪

スポーツの秋。地域の運動会に参加してみたら、日頃の運動不足を痛感！、猛反省！、という方も多いのではないのでしょうか。さて、メディアで活躍が報道されるプロ、アマ選手のなかでも、このところとりわけ心惹かれるのが滋賀県内小中学校出身者でもある伊達公子さんです。プロテニスプレーヤーとして、世界トップレベルの成績を上げたのちに26歳で現役を引退するも、12年後、37歳にして復帰今年で40歳。現在の世界ランキングは57位と日本女子中ではトップで、95位以下に顔を出す日本の若手選手を牽引しています。そもそも、復帰の理由が世界への再挑戦というよりも「後輩の日本人選手に刺激を与えるため」でした。その後の活躍ぶりによって、今や日本人以外の選手にも、選手以外の女性にも、さらに幅広い層の男性にも、よい刺激を与えているのではないのでしょうか。

世界的な業績を上げる多くの人々がそうであるように、伊達さんも天賦の才やそれを支える環境、出会いに恵まれたらうとはいえ、何よりもご本人の強靱な意志と不断の努力が今日を生みだしていると推察します。しかし、その自己修練を女性である彼女に見ると、「自分自身の運命を追究していく自由」を得るために、女性が男性よりも少しの、あるいは一層大きな努力を必要とする社会に

私たちが暮らしていることに思いを馳せないわけにはいきません。

女性霊長類学者のサラ・ブラッファアー・ハーディはかつて霊長類女性の生態を詳しく調べて、人間の女性が現代において発揮している能力や社会的達成そのものは決して「進化の産物」ではないと指摘しました。男性優位の人間の社会において、女性が「知性と不屈の意志と勇気」でつくりだし、戦いってきたものだと言ったのです(『女性の進化論』思索社)。男女であることも含め、「個人の特徴」が生きるうえでの困難をより大きくするという問題を現代の日本社会はまだ解決できていません。しかし、自分の性を生きることがときに社会的なハンデとなることを引き受けつつも、自身や同胞、同輩、後輩の出産や子育てともかかわりつつ、女性にとって安心、自由な社会への変革を望んで行動し、その到達点を後退させないことに多くの女性が日々努力してきたことも揺るぎない事実です。

時代を生きる女性のチャレンジ、ということでは、重なる心が伊達さんの歩みに見られるような気がします。日々の暮らし、活動の場はまったく違っても、彼女の姿に励まされる人が多いのではないのでしょうか。

#### 第2回 うみかぜセミナー：発達障害と歩む

とき 11月13日(土)13:30~15:30  
ところ 滋賀県立大学人間文化学部 D0-202室  
テーマ 「自閉症教育で大事にしたいこと：『障害特性に応じた教育』再考」

講演：赤木和重氏(神戸大学准教授)

いずれも事前登録不要、参加無料です。皆さま、お誘いあわせてご来場ください♪  
問合せ先/滋賀県立大学子どもの未来応援プロジェクト tel.0749-28-8444 fax.0749-28-8559

#### 第4回 うみかぜシンポジウム

とき 11月20日(土)13:30~16:30  
ところ 滋賀県立大学交流センターホール  
テーマ 地域で育む子どもと若者—おとなと社会の役割  
講演：尾木直樹氏(教育評論家・法政大学教授)「どのような学力が、何のために必要か」

#### うみかぜだより 第11号

発行 子育て応援ラボ「うみかぜ」(竹下秀子研究室内) 彦根市八坂町2500 滋賀県立大学人間文化学部 tel.090-7343-2405 fax.0749-26-7235  
編集 上野有理・齋藤亜矢・竹下秀子・広田幸子・丸澤由美子

### 人間らしく生きていく力とは？(3)

——「困った子は困っている子」を理解する——

前号で、人はまなざしを向けてくれる相手を好きになり、その人のすることをまねして自分に取り入れていくということをお話しました。しかし、相手と目が合いにくかったり、相手の表情や身ぶりがどういうことを意味しているのか、わかりにくいと思う子どもたちもいます。急に怒り出す、場の空気が読めない、無表情だというようなこともあり、周りの人からは「困った子」だと思われがちです。が、じつは本人の立場からすれば「困っている子」です。

何らかの脳機能の不具合で発達が乱れることがあり、さまざまな『発達障害』と呼ばれる状態が現れます。乳幼児健診や集団生活の中で、ほかの子と違う様子に気づかれ、専門家に相談するようアドバイスされることが多いようです。知的な遅れのない場合は気づかれにくく、また、相手の気持ちや表情の意味がわかりにくいので、いじめられたり、しつけのできていない子と思われがちです。道路に飛び出したり、高いところにむやみに登ろうとしたりして危険なことも多くなりがちです。ちょっと叱られたり誤解されたりしたことについてまでこだわって気持ちの切り替えができなかったり、気持ちがこじれたりすると反発して暴力をふるうこともあります。親にとってはまさに「困る」ことが多く、子育て困難を感じてしまい、虐待の原因になることもあるようです。

「困っている子」の側の困難はさまざまです。たとえば、普通、子どもは、目の前にいる人の声へ選択的、集中的に注意



を向けます。しかし、自閉症児の場合、人の声もそれ以外の雑音も一度に押し寄せるように聞こえることがあるようです。こんなときは誰でも怖いと感じるのではないのでしょうか。手のひらをひらひらさせたり、パタパタさせたりするなど独特の行動は、押し寄せる刺激からわが身を守るうとして、何とか自分を安心させているのかもしれませんが。

また、発達障害の当事者で、自身の経験を著作で語っておられる藤家寛子さんは、「知覚過敏」のため、雨やシャワーが肌に当たるととても痛く、まるで毛穴に針が何本も刺さったように感じるそうです。

私たちは、自分が周りの人に対して感じたり、行動したりしていることを普通とか常識だと捉えがちです。他の人が自分とは異なった感じ方、行動をすることもよくわかっていますが、その度合いが大きければコミュニケーションの困難を感じてしまいます。しかし、互いを隔てる「違い」も固定的なものではありません。相手との「違い」を認め、よく知ることができれば、関係のあり方を改善する方向に進むこともできます。

発達障害はさまざまに分類されます。同じ診断名を与えられても、一人ひとりの困難の質や大きさはさまざまです。家庭でも保育園・幼稚園、学校でも、目の前にいる子どもたちは、それぞれすばらしい力を持って生まれてきています。そのすばらしい力に注目してその子の自尊心や生きていく力をみんなで育てていきたいものです。

参考文献 ● 杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社現代新書  
 榎原洋一『発達障害と子どもの生きる力』金剛出版  
 ニキ・リンコ×藤家寛子『自閉っ児こういふ風にできてます!』花風社



### ふれあい遊び

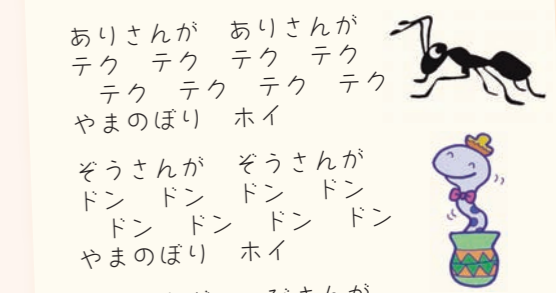
#### やまのぼりホイ

作詞:鈴木みゆき 作曲:佐倉智子

お子さんの手や足をさまざまな動物や虫たちが登っていく…そんなふれあい遊びです。まず、「ありさんがありさんが」の部分では、お子さんの手のひらや足の裏をお母さんの指でトントン刺激します。「テクテク…」で、お母さんの指はお子さんの手や足から肩まで、ありさんになって歩いていきます。「そうさん」の時には、お母さんの手をグーにしながら、「ドンドン…」と大きいそうさんが歩くように動かしましょう。また「へびさん」の時には、お母さんの人差し指を「ニョロニョロ…」と蛇が這っていくように動かしましょう。肩まで登っていったら、最後に「ほい」で、お子さんの肩を「トン!」とリズムよくタッチします。

お子さんの手をお母さんの指や拳が登っていく…という単純な遊びですが、子どもたちは触れられている心地よさとすぐたさで、「もっと!!」と大喜びです。乳児期の子どもたちは、お母さんの手から逃げようと腕や足、身体を必死によじっていますが、お母さんがやめるとお母さんの手を持ちたり、顔をジッと見たりして「もっとやって〜!」と要求します。幼児期は、「ありさん」「そうさん」「へびさん」だけでは満足できず?、「今度はうさぎさん!」「ぼっぼさん」「わんわん!」など、他の動物も要求します。時々、「OO!!」とわからない虫の名前が出てきて困ってしまうこともあります。その時は「こうだよ〜」と子どもが歩き方を教えてくれ、子どもから学ぶこともいっぱいです!

秋になり、虫の音も聞かれるこのごろ、「これはどうやって登るのかな?」とお子さんと一緒に考えながら、遊ぶのも楽しいことですよ!



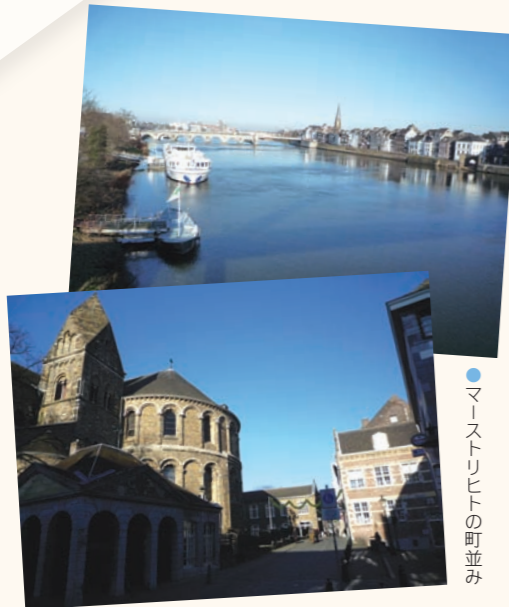
### 世界の子ども

オランダ

ベルギー、ドイツとの国境に位置するオランダ最南端にマーストリヒトという街があります。地理的な利点に加え、オランダの大学で広く推進されている英語による教育システムもあり、近隣のドイツ、ベルギーをはじめ、イタリア、ポルトガルなどヨーロッパ各国、またアジアや南アメリカの国々からも多くの人たちが就学や就職で来て暮らしています。そんなマーストリヒトに在住のパス(岡本)早苗さん(マーストリヒト大学)に、さまざまな国との比較からみえてくるオランダの出産・育児最新事情を紹介いただきます。

日本と同様、ドイツやベルギー、フランスでは産院や病院での出産が一般的なようです。それらの国に比べて、オランダの女性は自宅出産を望む人々も多く、そういった希望をサポートするシステムが発達しています。自宅出産を望む人々はいわゆる助産師と産科専門の看護師の助けを得て自宅出産をします。こういった背景にはもちろん、出産、育児に対する考え方の違いもあると思いますが、病院システムの違いがあると考えられます。日本のように個人経営のマタニティクリニックがあららこちらにある状態と違い、オランダではいわゆる専門医が個人のクリニックを構えることは認められていません。国民は近所のかかりつけの医院でまず診断を受け、必要に応じて、総合病院の専門科に紹介されます。日本やドイツなどと異なり、自分の意思で直接、専門医や総合病院にて検査や診察を受けることができないうため、かかりつけの医院で手に負えなかった症状のときのみに総合病院に行くというようなイメージがあります。結果として病院への足が遠のいてしまうそうです。

自治体などのサービスで出産後2〜4週間は、毎日、ベテランのヘルパーが家に通ってくれ、炊事、掃除や買い物など家事全般から、授乳の方法や育児のこつなど、経験者の知恵と助けを受けることができます。他国出身で夫婦だけで育児をすることが心強いということをよく耳にします。また、ワークシェアリングが進んでいることにより、パートタイム労働や自宅勤務への切り替えに対する理解があり、夫婦で協力して育児をすることがとても尊重されています。ただ、育児休暇は出産前後の3ヶ月から半年ほどと近隣諸国に比べると比較的少ないようです。現在、企業や雇用者単位でも夫の育児休暇導入や、育児休暇の延長などが前向きに検討されてきており、育児をしながら就労し続ける環境の改善がこれからも期待されます。



● マーストリヒトの町並み